

新年度初め、 保護者は何を 知りたがっているのか

[プロフィール] 国際会議事務局および研究所勤務等を経て、平成7年よりフリーの人財育成研修講師として活動を開始。現在、「コミュニケーション」をキーワードに、日本各地で就活支援・教育・医療・行政分野における研修・講演等を展開。高校生と大学生の二女の母で現役の保護者でもある。



早稲田大学大学院
教職研究科非常勤講師／
元茨城県牛久市教育委員長

永堀 宏美

ポイント

- ① 式典やPTA会合は、保護者との心の距離を縮める「大切なプレゼンテーションの場」。
- ② 互いの差異を自覚し、「伝えたいこと」と「知りたいこと」の溝を埋める。
- ③ 保護者が受け取りやすく前向きな伝え方で、不安払拭と学校経営参画を促す。

桜舞う新年度の学び舎に集う子ども・保護者と、それを迎える校長をはじめとした学校スタッフ——立場は違えども、子どもの健やかな成長と豊かな学びを願う気持ちは同じです。

その両者の尊い前向きなエネルギーを共に目指すゴールへと向かわせるには、互いの「知りたいこと」VS「伝えたいこと」のコミュニケーション・ギャップを乗り越え、信頼関係を形成することが肝要です。

そのためにも、入学式や新年度PTA会合は、単なる儀式や伝達の場ではなく、保護者との心の距離を縮める「大切

なプレゼンテーションの場」と認識していただきたいと思えます。

両者の相違点を認識した的確なコミュニケーションは、信頼関係を形成し、より豊かな学びを促します。

「コミュニケーション」をキーワードに研修・講演を行い、また現役保護者でもあるという私自身の経験から、新年度初めの貴重な機会を信頼関係形成の礎としていただくためのポイントをお伝えします。

「学校が伝えたいこと」と 「保護者が知りたいこと」のギャップ

コミュニケーション・ギャップを解決するには、

- ① 両者が「違う」ことを自覚する
- ② 互いのニーズに合った情報を提供する
- ③ 率直かつ具体的な表現を心がける
- ④ 保護者が「自分ごと」として捉えらるる伝え方を工夫する

の4点がポイントとなります。

とくに新入生の保護者と学校側には大きな乖離があることを深く自覚したうえで

で伝えることが必要です。

たとえば、入学式で学校側は、「学校経営方針」「学校生活の諸ルール」を中心に据え、保護者の理解と協力を得るためにも最初が肝心と、熱の籠ったご挨拶になります。

一方の保護者は、「わが子はこの学校で無事に楽しく過ごせるか？」と新生活への不安とともに、それを払拭する安心材料やヒントを得たいと思っています。

最も望んでいるのは、壇上の校長が美辞麗句で飾る理想の学校像ではなく、より現実的で具体的な学校生活に関する情報——学校行事、クラス担任および部活指導者の人柄やわが子との相性、クラスおよび部活動での交友関係やそこでのトラブルへの対処、生徒指導や進路指導に関する情報などです。

それが「わが子の幸せな学校生活」に帰着するからです。

だからと言って、学校経営について語る必要がないとは申しません。要は伝え方だと思えます。

伝え方

——的確なコミュニケーション

(1) 「建前」より具体的な「本音」

「保護者の皆さんには、本校へのご理解とご協力を賜りたい」と言うだけでは、校長には本音でも、残念ながら保護者側は建前の話と受け止めがちです。

学校側の思いを受け止めてもらうには、本音を「保護者に受け取りやすい」伝え方にして、安心感と信頼感を抱かせることが大切です。

たとえば校長が「ウチの学校ではいじめは一切ありません」と伝えた場合、保護者の多くは「それは建前でしよう？うちの子どももしイジメに遭ったら、この学校はどう助けてくれるの？」との思いを抱きます。

このような場合は、隠さず、誤魔化さず、前向きに伝えるのが一番です。

たとえば、「本校はいじめゼロを目指していますが、まだ心身ともに成長段階にある子どもたちですから、トラブルが全くないとは言えません」と率直に伝え

ると、現実味が増し、親近感につながります。

そして、「ある意味、それもまた成長の糧と捉え、隠したり一方的に叱ったりするのではなく、起きてしまったトラブルの原因や経緯をしっかりと子どもと見極めて、二度と起こさないように指導し、それを通じて生徒自身が解決する力を磨き育てることが最も大切と考えます。これが本校の目指す生徒像です」とすれば、本音とともに、しっかりと学校経営理念を語ることもできます。

(2) 最初の5秒、30秒、3分が鍵

聞き手の心にとっかかりとメッセージを届けるには、

①冒頭の5秒で、インパクトのある言葉で引きつけ、

②その後30秒以内に「これは聞くに値する」と思わせ、

③3分以内で要点をすべて網羅し、④最長でも5分以内で終わらせる。

が理想です。

特別な訓練をしないかぎり、人が集中して話を聞くことができるのは3分が限

界です。

思いの丈に反して、長い訓話ほど馬耳東風となり、ほとんど心に残りません。とくに学校関係者の挨拶は長過ぎる傾向がまだ顕著で、御検討の要あります。

広く寒々とした体育館で、式典の長々とした挨拶や一方的な説明に文句も言わず保護者が居続けるのは、ひとえにわが子の未来を案じてのこと。

「親なら当たり前」と言われてしまえばそれまでですが、そんな親心に応え安堵させられるものを「受け取りやすい形」にして提示できれば、その先の信頼関係は大きく変わります。

(3) 具体的な取り組みを、分かりやすく伝える

伝える内容に具体性を持たせると、保護者が「自分ごと」として捉え、心の距離と親密さが増します。

「聞くに値する」判断は、どれだけその内容が聴衆にとって身近なもので決まります。一般論はさておいて、「実際にこの学校に通っている生徒はどうなの？うちの子は大丈夫？」が親心です。

たとえば、「イジメ根絶のために、一日に一度は生徒に誰かが必ず声をかけて、気になる点があれば職員会議などで取り上げ共有しますが、ご家庭でもお気づきの点があればいつでも学校にご連絡ください。遠慮は無用です、対応が早いほど解決も早くなります」など、日頃の学校の取り組みを保護者が自分ごととして捉えられるように近づけて語り、「担任以外でも誰でも対応できる、全校挙げての生徒指導が本校の経営方針です」などと添えれば、経営理念も印象に残り、信頼も増します。

式典での留意点

(1) 教員紹介を工夫する

教員を一列に並べて名前を連呼・会釈するだけで済ませず、来校機会の少ない保護者たちにもしつかり名前と顔を覚えてもらえる工夫、たとえば印象に残るコメントをひとつ添える紹介方法などがお勧めです。

担任以外にも、スクールカウンセラーや相談員などのリストを顔写真とメルア

ドつきで配布すると効果的です。

(2) 学校関係者全員を披露する

学校はさまざまな人の支えで成り立っています。教員以外にもすべての学校関係者——用務手、警備員、スクール・アシスタント、図書室や花壇のPTA/地域ボランティアなども紹介すると、学校全体のチームワークのよさをアピールでき、保護者が積極的に学校にかかわる呼び水にもなります。

また日頃の尽力に感謝し労う機会にもなり、さらには互いに見知っておくことが防犯上でも生きてきます。

(3) 引用には必ずアレンジを加える

式典挨拶での文言を精査される際、引用の仕方に気をつけましょう。昨今は校長挨拶の数分後には、保護者コメントがSNSで飛び交います。

「隣の中学の校長も同じエピソード使った？ 同じネタ本かな？」なんて呟かれて、信頼関係形成のスタートが躓かないようにしたいものです。

最後に、皆様の学び舎での実り豊かな1年をお祈りしています。